

# 小骨片を伴う足趾骨基部骨折に対する環軸包帯を用いた牽引整復法

○深澤 晃盛（北多摩支部 ふかさわ接骨院 東京医療専門学校）

**Key words**：骨折、保存療法、軸圧外力、側副靭帯

本文

【はじめに】 足趾骨基部に小骨片を認める骨折は、側副靭帯附着部での裂離骨折が多い。今回の対象は、同様の部位に小骨片を認めるが、軸圧外力による発生で、損傷形態が異なる。画像所見のみでは、判別に苦慮するため、受傷原因の詳細な聴取は重要である。

本研究では、軸圧外力による小骨片骨折の特徴を示し、環軸包帯を用いた牽引整復法の有効性を検証した。

【対象】 受傷直後に当院を受診し、外固定後に近医を受診して単純X線検査を受け骨折と診断された2例である。

1例は、母趾末節骨基部外側（70代、女）に、もう1例は小趾基節骨基部内側（40代、女）に小骨片を認めた。

【方法】 徒手整復後に外固定して、1週間後にレントゲン撮影し解剖学的位置関係について整復状態を評価した。

【結果】 両症例とも整復位は良好であり、解剖学的治癒に近い状態で骨癒合し、可動域制限なく治癒となった。

【受傷時の状態評価】

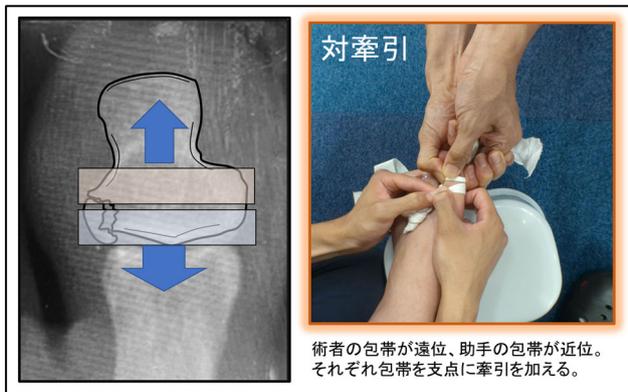


受傷時の画像所見では、骨折部の骨折線長を計測する。基部側の骨折線が短い場合は軸圧外力による基部海綿骨の圧潰と判断して牽引法を実施する。

（小骨片は海綿骨の圧潰により押し出された結果として生じたものと判断する）

【整復法】

単純な牽引を行うと基部全体に牽引力が加わり骨折部が離開してしまう。よって、牽引の支点を作ることが重要である。支点よりも遠位に牽引力が加われば、海綿骨の圧潰部が



引き出される。骨片には牽引力が働かないので、基部圧潰凸部が整復されれば骨片を直圧して解剖学的に整復が可能で

ある。牽引の支点を作る為に、環軸包帯を用いた。8裂の環軸包帯を4重に折り、患部に巻き付け捻じる。この時に、巻き結びを利用してよい。巻き結びの方法については、成書を参考にされるとよい。

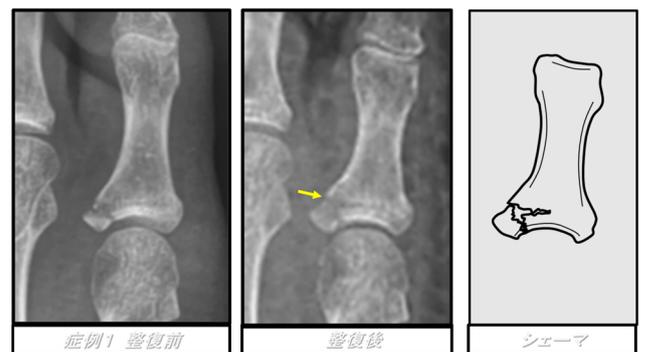
一人整復法も可能であるが、助手との対牽引が行えればさらに良い。

圧潰部を中心に内転外転の圧縮転位がある場合は、それと反対方向へ外転気味に内転気味に牽引を加えるとよい。十分な牽引後に、骨片を直圧して整復する。

【結果】



症例1 母趾末節骨基部外側骨片の症例 整復前後で爪内に見える末節骨の長さが改善している。また、骨片は解剖学的に整復されている。



症例2 小趾基節骨基部内側に小骨片あり。整復後には、基部に横骨折線（矢印）が出現し、牽引が適切な部位に加わったことを示している。

（画像は患者が撮影したスマートフォンを使用承諾済）

【考察】 小骨片を認める骨折に対し、牽引力を加える整復方法の検索を行ったが見つかる事が出来なかった。また、小骨片を認める症例が軸圧外力の結果であるという報告も見つける事が出来なかった。今後症例数を重ね、さらなる検討が必要であるが、本法は軸圧外力で発生した小骨片を解剖学的に整復できる方法であることが示唆された。